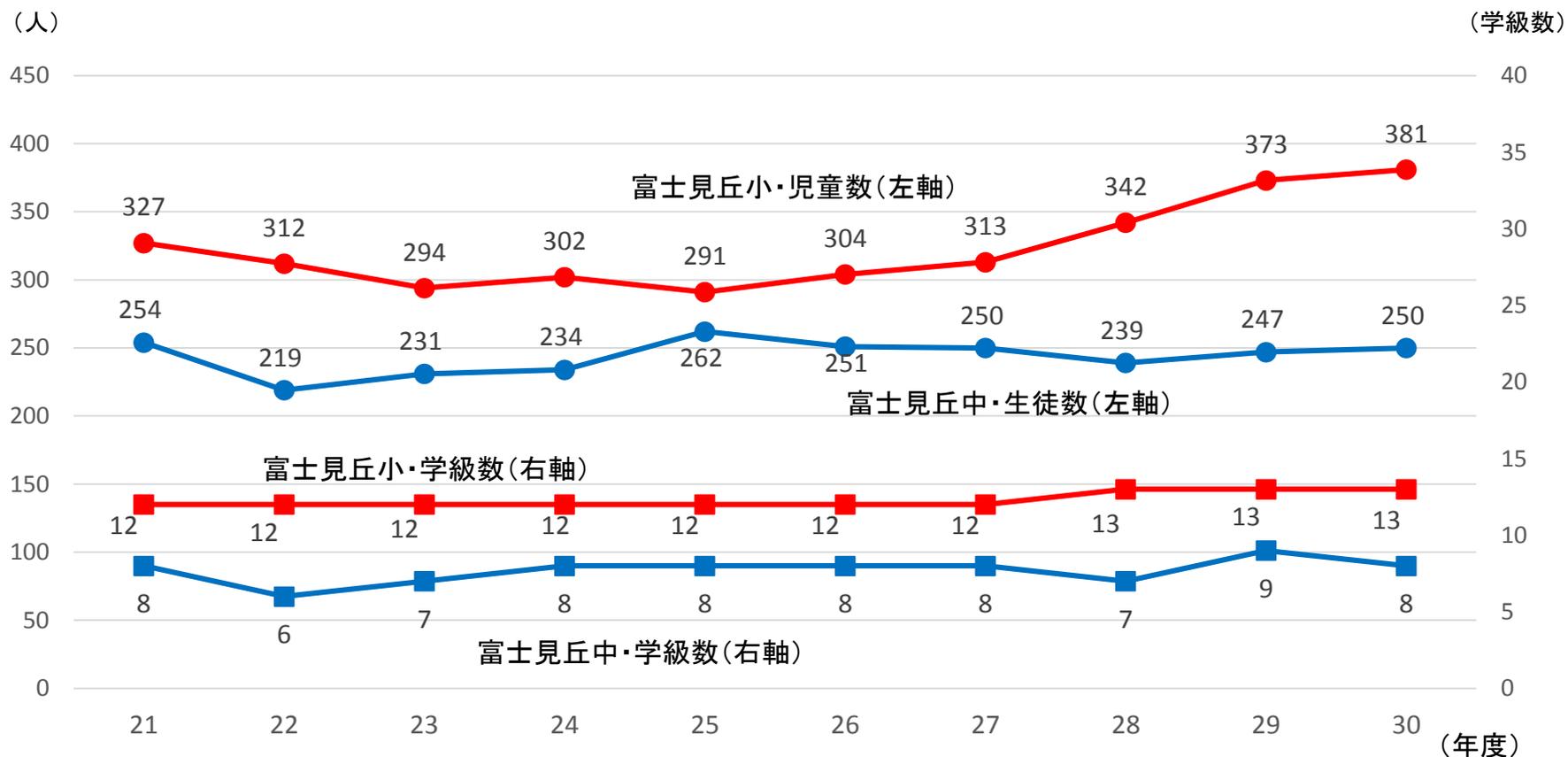


## 児童・生徒、学級数の推移

図1 過去10年間の富士見丘小・中学校の児童・生徒、学級数の推移



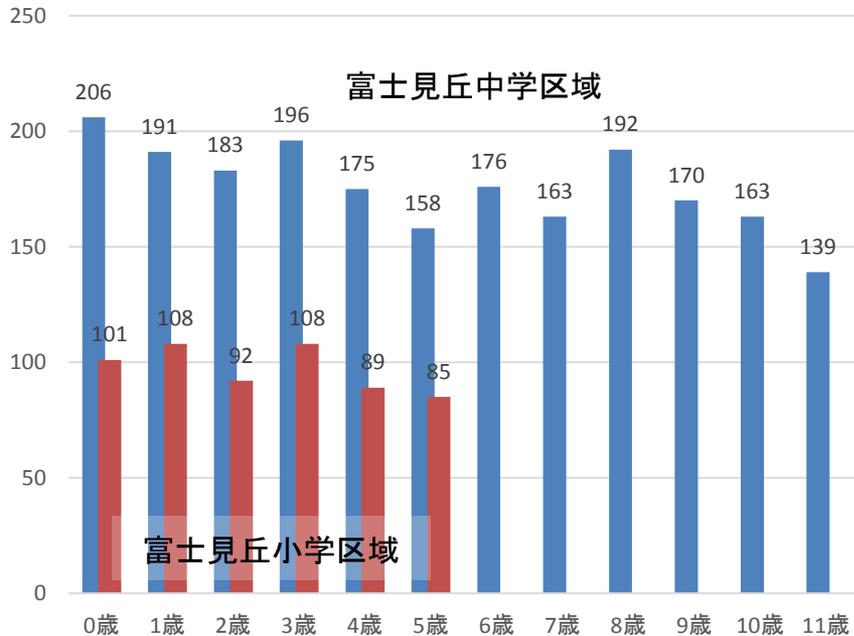
# 児童生徒数・学級数の推計 ◆推計手順の概要

## ■児童生徒数の推計手順の概要

(平成36年度以降の中・長期的な児童生徒数の推計手順)

$$\text{入学者数} = \left( \begin{array}{l} \text{① 学区内の} \\ \text{未就学児人口} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{②} \\ \text{住基変動率} \end{array} + \begin{array}{l} \text{③ 地域特性を} \\ \text{踏まえた補正} \end{array} \right) \times \begin{array}{l} \text{④} \\ \text{入学率} \end{array}$$

① 図2 富士見丘小・中学校の各学区内の  
入学前住民登録人口の状況 (H30.4.1現在)



② 表1 住基変動率の想定

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
小	95%	95%	95%	95%	100%	95%	-	-	-	-	-	-
中	90%	90%	90%	95%	95%	100%	100%	100%	100%	100%	105%	105%

(※)住基変動率;  
各歳児の人口と就学時年齢児(小:6歳、中:12歳)の人口の比率

④ 表2 入学率の想定

	開校年度まで	開校翌年度以降
富士見丘小	80%	90%
富士見丘中	55%	65%

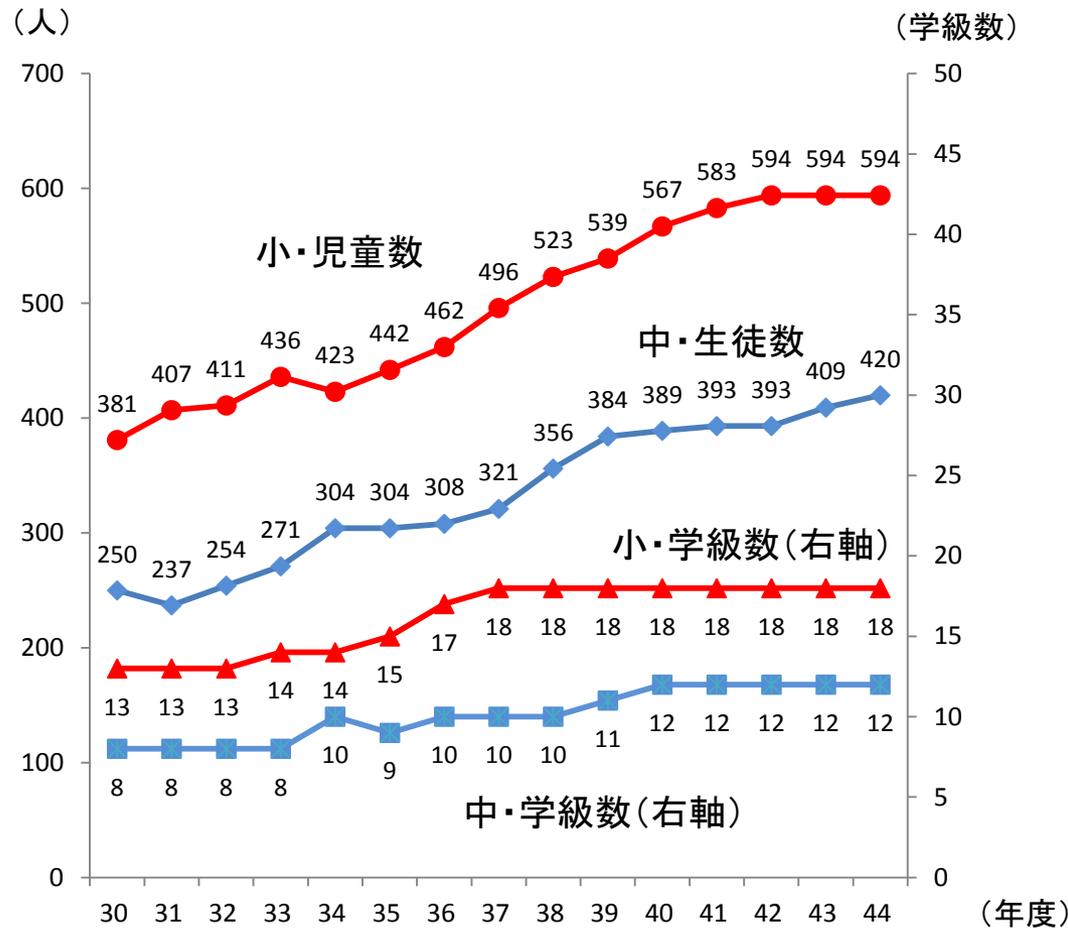
(※)入学率;  
国私学への進学率等を考慮した住基人口に対する入学率。  
近年の入学率を基に、開校翌年度以降については、これまでの  
改築校の動向や、区域外就学の状況等を加味して想定した。

③ 放射5号線沿道での用途地域の変更や、今後の高井戸公園の開園、学区内に生産緑地が多く残る点等の地域特性を考慮し、必要な補正を行った。

# 児童生徒数・学級数の推計 ◆将来推計

## 児童生徒数・学級数の将来推計

図3 富士見丘小・中学校 児童・生徒数・学級数予測



(※) 現在生まれていない歳児については、直近年と同数の住基人口を仮定。  
開校年次は小・中とも仮に平成36年度で設定。  
学級数は、平成30年度学級編成基準(表3)を基に算定。

表3 【参考】学級編成基準

<小学校>	児童数	
1学級	1~35	
2学級	36~70	
3学級	71~105	

<中学校>	生徒数 (1年生)	生徒数 (2・3年生)
1学級	1~39	1~40
2学級	40~70	41~80
3学級	71~105	81~120
4学級	106~140	121~160

表4 改築校の想定規模

		平成44年度	改築規模
小	学級数	3学級×6学年	18
	児童数	99人×6学年	—
中	学級数	4学級×3学年	12
	生徒数	140人×3学年	—

●変動の予測可能な今後14年間のピーク(平成44年度)の児童生徒数を基として、そこから多少増えても学級数が変わらない点も加味し、改築校規模を上記のとおり、小学校18学級、中学校12学級と想定。